

皆野・長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
- ◇例会場
- ◇事務所



第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
 Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手をとりあおう

第1725回例会 令和8年4月9日(木)

【会長の時間】 代理 山田 利明

皆さん、こんにちは。最近、戦争の事もあり、世の中が騒がしくなっています。大きい会社の仕事をしておりますが、やたら忙しいです。うちの会社も人数が多いわけではないので、大きい仕事は具体的な事がなかなか決まらずになかなか進みません。みんな2万平米、3万平米とかで決まりません。コストが掛かってしまって、得してないというのが現状です。3つも4つも重なっているの、みんな順番にやって、順番にお金を取ろうと。みんな別々にやると、仕上がらないとお金にならないので。



戦争が起きて、物資が上がって、何年も前から契約してやっているの、物資が上がると、コストも掛かり、設計の見直しという連絡もありました。1.4倍になると、設計も何もありません。お金は上がらずに、図面を直すという事を何度もやっていて、コストが上がって、みんな四苦八苦しています。

建設業界は、個人で住宅を建てる人はたいへんだらうなど。2年前から家を建てている人は、コストが上がるから家を小さくしてと。更にコストが上がると言われて、更に家を小さくすると。いつまでたっても家が建たないと。ある程度、度胸を決めてやらないという事です。

そういう事で、株を下がった時に買って、上がった時に売るといのが一番いいかなと。世の中も混乱しているし、戦争を止めてくれないかなと思っています。そうでないと、我々も資材が上がるので、もっと安く設計してくれと言われますが、基準があって出来ません。建設業の愚痴になります。

【幹事報告】 山田 利明

1. 地区事務所より
 - ①CLLSの案内
 - ②文庫通信

4月19日の日曜日にCLLSが開催されます。乗り合わせで行きますので、よろしくお願ひします。



会員卓話

景で語る力ー漢詩から洪沢栄一へ」



小笠 和也会員

会員卓話という事で、何を話そうかと思っておりましたが、前会長が謡曲を謡って、漢詩が出てきますので、漢詩についてのお話をさせていただきます。春の時期ですので、漢詩で有名なのは、この二つかなと。あとは、私がつくってみた漢詩と当館に

伝わる洪沢栄一がつくった漢詩についてお話します。

漢詩は大きく分けて五言と七言があり、五文字で一句が出来るのを五言、七文字で一句で出来るのが七言です。それ以外ありますが、定型は五言と七言が有名です。絶句と律詩の形がありますが、絶句は五文字が四行で終わるのが絶句。律詩は五文字で八行になると、五言律詩。七文字も同じです。一番短く簡単なのが五言絶句と七言絶句です。二文字、二文字、一文字または二文字、一文字、二文字のようなリズムが中国語のリズムです。

春暁(孟浩然) 五言絶句

春眠不覚暁 春眠 暁を覚えず
 処々聞啼鳥 処々 啼鳥を聞く
 夜来風雨声 夜来 風雨の声

花落知多少 花落つること 知る多少ぞ

音は韻がありますが、二行目と四行目が同じ韻を踏みましようというルールがあります。鳥と少という字は、日本語でも「ちょう」と「しょう」で韻が踏まれています。ちなみにこの詩は一行目の暁も韻が踏まれています。一行目も韻を同じ漢字にする事も出来ます。必ずという事ではありませんが、一、三、四を同じにすると詩の音の雰囲気伝わってきます。暁、鳥、少が同じ韻になっています。読みくだと、春眠暁を覚えずとなると、日本語読みになるので、音がずれるので、音の世界だと韻が踏まれています。

訳すと、春の眠りは心地よく、夜が明けたことにも気づかない。あちこちから鳥のさえずり

が聞こえてくる。昨夜は風や雨の音がしていたが、花はいったいどれほど散ってしまったのだろうか。難しそうに見えますが、今の季節を詠んだ句になります。誰でも感じている事が詩になるという事です。

孟浩然のつながりで李白の詩があります。

黄鶴楼送孟浩然之広陵（李白）七言絶句

故人西辞黄鶴楼

故人 西のかた 黄鶴楼を辞し

煙花三月揚州

煙花三月 揚州に下る

孤帆遠影碧空尽

孤帆の遠影 碧空に尽き

唯見長江天際流

唯だ見る 長江の天際に流るるを

二、二、一、二、二、二、一、二、二、一、二がリズムになります。これも七言ですが、二行目と四行目を同じ音にしましょうと。州と流は日本語でも音が似ています。韻は決まりがあって、州と流は同じですという辞典があります。今詠んでいるのは、北京語で中国語の基本の音です。上海、香港になると、読み方が違ってきますが、方言で違いますが、韻は一緒です。

これは李白が友達の孟浩然と黄鶴楼という場所で別れる時の詩です。説明はありませんが、景色を見て、人が消えていって、船の帆が遠くの天の方へ消えていって、川と空が一緒になって、景色だけが残っているという風景で別れの詩で寂しい気持ちと春の情景を謡っている名句だと思い、紹介しました。

次に自分で挑戦した「遊山入澗」という長澗の事を詠んでみました。

山路遊人歓喧

山路に遊人 歓声喧

旗風翻影過青天

旗は風に翻り影は青天を過ぐ

澗流一到塵慮尽

澗流一たび到れば 塵慮尽く

月明如水洗心間

月明らかにして水の如く 心間を洗う

二行目と天と四行目の間が、日本語でも共通の音だと分かります。中国語でも共通になっています。喧、天、間が同じ音です。これは長澗の風景を考えながら試作してみました。心が切りかわる詩、賑わいの中から、静けさに入った瞬間を詠みました。

意味は山の道、長澗の商店街がにぎやかで、旗は、商店街にあるのぼり旗をイメージしています。そこから岩畳に来ると、静かな流れになって、塵慮尽は、日頃の煩わしい事と言うか、仕事上の問題、人間関係等あると思いますが、そういったものが忘れられるなどという事で素晴らしい景色が心を洗ってくれると。静という所と賑やかな事と長澗の澗を静かなという意味で、昼間の賑わいと夜の月明かりを比較して作ってみました。

最後に渋沢栄一の句です。長生館にある掛け軸で、本人の直筆の詩がロビーにあります。

捕魚図詩 青淵老生（渋沢栄一） 七言絶句

風吹蓑笠雨翻河

風は蓑笠を吹き 雨は河を翻す

網裏捕魚知幾多

網の裏に魚を捕えて 幾多なるを知る

一夜子陵仙去後

一夜 子陵 仙去せし後

水明山紫奈渠何

水明山紫にして渠を奈何せん

これも韻は河、多、何です。意味は、風は蓑や笠を打ち、雨は川面に激しく揺らしている。網にはどれほどの魚がかかっているのだろうか。あの子陵が世を去ってからというもの、水は澄み、山は紫に美しいが、それでどうなるというのか。

説明いたしますと、渋沢栄一が1840年生まれで、1867年に大政奉還の時につくった詩でフランスにいる時の詩です。27才で若いのですが、フランスに徳川慶喜の弟に同行している時に江戸幕府が大政奉還して倒幕された時の詩です。河を翻すというのは、体制が翻るほどの時代だと。子陵は、漢の時代に役人の事を比喻して、子陵が仙去るは、一般から世俗界の社会から引退することを仙人になると表現して、おそらく、徳川慶喜の事を一夜にして、政治界から身を引いてしまった事をいっているんだろうと憶測しています。そこに水明山紫、自然豊かな山や河が残ったとしても、徳川慶喜がいなくなると、どうなるのかと嘆いている詩です。

もう一つは、一夜子陵は渋沢栄一の事かもしれません。幕臣だったけれども、明治政府の仕事をしていないで、自分で株式会社をつくって、体制に付かないといった事も含まれているのかなど。

この句は、長生館初代が、渋沢栄一翁に何か詩を書いてくださいという事で、大正元年から大正10年くらいの間ですが、渋沢栄一が27才の時につくった詩を、初代が指名してこれにしてくれと言ったかどうかは分かりませんが、渋沢栄一がこれが良いんじゃないかと書いてくれたのではないかと想像します。渋沢栄一に90才の時書いてもらったものです。

渋沢栄一は、論語だけでなく、漢詩・漢学の素養も深く、物事を景で捉える力があるから、ビジネスも同じく数字だけでなく、空気や流れ、全体像、見えないものを読む力、もともと渋沢栄一は数字的なものと論語的なもの。算盤と文学を両方兼ね備えていました。人は去り、景は残る、ゆえに詩となり、ゆえに歴史に刻まれる。文学にはそういった力を感じます。

